

完成は45年2月

新庁舎が起工さる 本館は地上10階

事務の合理化、市民のシンボルとして「富士市新庁舎」の建設は強く望まれていましたが、12月3日、現地（依田原新田100番地）で斉藤市長、中村議長ら200名が出席し、起工式を行ないました。

新庁舎の概要は、敷地面積が2万9000平方メートル、建物は10階建ての本館、3階建ての消防棟、平屋建ての現業棟と車庫棟、市民広場などもつくりまします。

建築延面積は2万3000平方メートルです。

総工費は16億3,123万円で、完成は昭和45年2月28日の予定です。

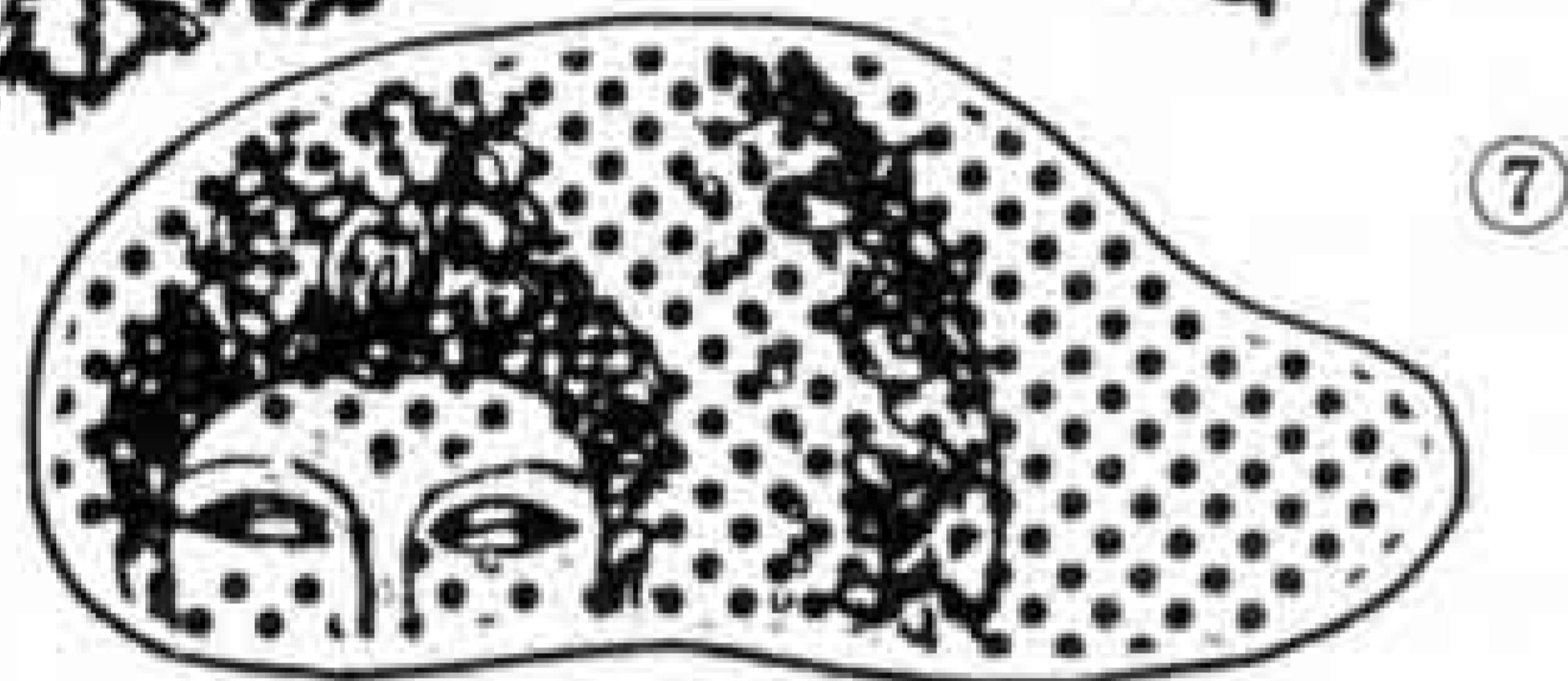
なお、工事請負業者は次のように決まりました。

主体工事は(株)竹中工務店で工費は11億3,300万円。電気設備は関東電気工事(株)で、工費1億7,650万円。空気調和設備は(株)朝日工業社で、工費2億1,000万円。給排水衛生設備は日立プラント建設(株)で、工費は7,580万円。昇降機設備は東京芝浦電気(株)で、工費は3,593万円。



＜くわ入れをする斉藤市長＝12月3日現地＞

仏像をたすね?



えんまだいおう 閻魔大王

この写真は、鈴川砂山の閻魔堂（えんまどう）に安置されている、閻魔大王の座像です。

像は道服をまとい、右手に笏（しやく）をもち、大きさは等身大で、彩色されていますが、木地のみえるところもあります。私たちがこどものころから、恐い人の代表として印象づけられてきた通りの姿をしています。

ところが、大王が密教の十二天のうちの焰摩天（えんまてん）として、両界曼陀羅外（まんだら）に位置をしめた場合

には、水牛に乗って右手に人頭幢（にんずどう）をもち、二天女をはべらせ、刀と戟（ほこ）を持った2匹の鬼を従えるという、優しい姿に変わります。

閻魔大王は、インドの鉄圍山（てつちせん）という、高い山の外側にある地獄

の世界に、18人の役人と8万人の獄卒をひきいて住んでいるといひます。そして生きているときに悪い事をした死人がそこへ行くと、これを審判して罰を加えるといひます。

地獄の大城のまわりは、黒金（くろがね）の高いへいをめぐらせてあります。4つの門の入口には2本の旗を立て、右の旗の上には人頭の形をつけて閻黒天女とし、左の旗には泰山府君の頭を表わしたものを付けてあります。この人頭はひと目にらんだだけで、罪人の罪を見わける力をもっているといわれます。

大王は、そばにいる魔人のもっている記録をみて、罪福を決めて処刑したり、生きているとき善行のあつた人は極楽へ送るという、地獄の主宰者だと仏教では教えています。（鈴木富男稿）

※解説

- ・曼陀羅＝仏を安置した壇とか絵図。
- ・人頭幢＝どくろの旗。



歳末たすけ合い運動

12月1日～12月28日

みなさんの善意のまごころをお寄せ下さい。

- 受付場所 吉原事務所一福祉事務所
富士事務所一総合窓口
鷹岡事務所一総合窓口

山火事を防ごう

山火事の発生しやすい季節です。山林内でのタバコやたき火のあと始末には十分注意してください。

なお、造林地ごしらえで火入れをする場合は、市長の許可を受けてから、風のない日の午前中に行なうようにしてください。